

【所信】

2023年度 理事長 野村 康太

VUCA。

元々は、アメリカで使われていた軍事用語ではあるが、近年では急激に変化をする世界情勢を表す言葉として利用されています。VUCAとは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、つまりVUCAとは、「変化が速くて、不確実で、複雑で、曖昧」このような時代のことです。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大や地球温暖化によるゲリラ豪雨や台風、地震などの自然災害、IT化やAI技術の急激な進化によるDXの推進など、めまぐるしく変わりゆく時代の変化を予測しにくくなっています。10年前、こんな時代が来るとは想像もしなかったが、実際には様々なことがどんどん変わっているテクノロジーの指数関数的な変化。米中関係やロシアウクライナ問題、グローバルで見たときの人口動態などの地政学的な変化。さらには「SDGs」持続可能な開発目標が定められていて、それに従った企業活動を求められているなかでの経済活動の変化。人間と組織の関係もどんどん変わりつつあります。いろいろなものが多様化していく中ですが、人々の価値観や幸福観も今後さらにどんどん変わっていくのではないのでしょうか。

変動性は、新型コロナウイルスの影響により働き方、経済活動、人と人とのコミュニケーション、教育、観光産業など様々な変化が起きました。同時にテクノロジーの進化や革新により、さまざまな価値観や社会の仕組み、顧客ニーズなどが変化していき、短期間で生活様式や経済市場の状況が大きく変わっていききました。このようにめまぐるしくさまざまなことが変化していき、先の見通しを立てることができず、将来の予測が難しくなっていることから私たちの不安要素は増すばかりではないのでしょうか。不確実性は、自然環境や政治・国家、制度などの不確実さではないのでしょうか。

地球の温暖化に伴う気候変動、また新型コロナウイルスのような未知の疾病など、唐突に訪れる問題を予測することは困難です。日本では、終身雇用制度や年功序列などの日本型雇用が崩壊しつつあり、成果主義での評価が一般的になってきています。これらのさまざまな不確実な事象から、政府や企業でも将来の予測をすることが困難ではないのでしょうか。複雑性は、経済がグローバル化したことにより、ビジネスはさらに複雑化しています。日本と海外では、習慣や常識、ルールなどが異なります。そのため、日本では成功事例のあるビジネスでも海外では通用しなかったり、逆に海外で成功したビジネスが日本では通用しなかったりすることがあります。

このようにグローバルなビジネス環境では、その国の法律や文化、常識などさまざまな要因が絡み合っ、ビジネスを複雑化しています。曖昧性 変動性・不確実性・複雑性が複雑に組み合わせることで、因果関係が不明で前例のない出来事が増えてきます。これは過去の実績や成功例に基づいたやり方では通用しない、曖昧性の高い世界へと突入していることを示しています。

「一人一人が地域のリーダーだ。」

人材育成委員会

今、社会に求められている人材とは。

それはめまぐるしく変わりゆく世の中に柔軟に対応し、常に変革の起点となるリーダーではないのでしょうか。常識にとらわれ過ぎると隠れている新しい発見やアイデアを見過ごす恐れがあります。現代では、常に常識を疑い逆転の発想でチャンスを掴むことが必要で

あり、社会や組織において顕在化していない本質的な課題を見つけ、問題の解決策をいち早く提案し実行できるリーダーシップを有する人材育成が重要です。

リーダーシップとは、未来を示し、人々を一つにまとめ、目標達成を導く能力のことであり、同時にこの地域を動かす能力でもあります。

VUCA 時代においては、本質的な課題ですらこれまでの事例とは異なる場合があります。社会が急激に変化していくことで、これまでの経験や常識では通用しなくなっている時代だからこそ、過去の成功事例のパターンにとらわれずに常にニューノーマルな考えや手法を取り入れ、新しいことに肯定的にチャレンジし続ける行動力が必要となるでしょう。さらに従来の資本主義的な考え方は異なり、SDGs やサステナブル経営など自分達の利益を追求するだけではなく、環境問題や倫理的問題といった社会的責任を果たすことのできる CSV（共通価値の創造）を軸に社会における課題の解決と事業を両立する考え方を持てる人材も求められているのではないのでしょうか。

私たち、青年会議所は希望をもたらす変革の起点として輝く個性が調和する未来を描き社会の課題を解決することで持続可能な地域を創ることを誓っています。私たち一人一人が全員で力を合わせ、英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな社会を築き上げていけるよう組織の人材育成に取り組んでまいります。

「地域で稼ぐという地方創生。」

地域創生委員会

本格的な人口減少社会を迎えるなか、観光を切り口とした地域づくりや近年急速に増加している訪日外国人客の活力を地方に取り入れる方向性が打ち出されています。しかし新型コロナウイルスによる影響で観光者数やインバウンド観光客数の不確実性が表れています。さらに人口減少による地域の需要減少を上回るペースで経済活動が縮小し、地域で稼げる主要産業が少なくなり、地域内需要に対する供給の大半を地域外から賄っている地域が増えています。今、私たちに必要なのは地域の自治体・企業・市民などが連携し、自律的で持続的な地域経営の確立が求められています。

私は今までの当たり前や経験に依存した自治体経営から脱却し、マーケティングなどの要素を導入した地域経営が必要だと思っています。つまり経済的価値と社会的価値の両立という、三方よしや CSV（共有価値の創造）のような一見相反する 2 つの課題解決のモデルに加え、強い意志と実践力で地域再生に取り組んでいる「ソーシャルイノベーター」の役割が大切になってくるのではないのでしょうか。

例えば、アニメや映画の聖地巡礼で考えてみると、稼ぐ仕組みの成功の秘訣は「さりげなさ」です。ファンの考え方やニーズを丁寧に拾い上げ、ファンを主役にした事業こそが大切ではないのでしょうか。近年の観光は、そのニーズがコト消費や異日常の体験へと変化しており、地域住民の暮らしへの関心が高まっています。今こそありのままの日常を見てもらう「普段着のおもてなし」が必要ではないのでしょうか。今こそ、稼ぐ目的を明確にし、共感を得る、「こういうまちをつくりたい」など、ビジョンを明確に描いた上で取り組むことが重要であり機能的価値だけでなく、情緒的価値を訴求することのできる事業を推進してまいります。

また自分たちの地域と他地域の違いをみると「人」「場所」「時間」という価値軸を表したときに、「あなたでなければ」「ここでなければ」「今でなければ」の 3 点に価値が見えてきます。これらは便利で手頃な商品やサービスが溢れる現代において、これらの価値観は人々の心を惹きつける質的な要素です。地域創生の本質は一人ひとりが地域のことを客観的に理解し、考えて行動することにあります。したがって多様なビジネスを通じて住民が日常的に当事者意識を持ち、地域経営に参加する萌芽になることのできる事業の構築を行ってまいります。

「家庭教育は、すべての教育の出発点。」

未来教育委員会

子どもたちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所であり、社会へ巣立っていくために大切な場所である必要があります。だからこそ一番必要なのは「家庭教育」ではないでしょうか。

私たちが子どもの頃は、買い物や家事の手伝いによって子どもたちは自然に社会性や粘り強さ、責任感を身につけたり、夕方まで外で泥だらけで遊ぶことにより親が知らない間にも創造力や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけることができたのではないのでしょうか。その一つ一つ全てが「家庭教育」だと考えます。

家庭教育は親やこれに準ずる人が子どもに対して行う教育のことですべての教育の出発点であり、家庭は常に子どもの心の拠り所となるものです。乳幼児期からの親子の愛情による絆で結ばれた家族とのふれ合いを通じて、子どもが基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割を担うものです。しかしながら現代の家庭の教育は、孤立した個々の家庭の中で親が個別責任において育てるものとなってしまっています。環境の大きな変化の中で、これまで生活の中で育まれてきた力が育たなくなってきたり、家庭と地域の育ちの環境の変化が起きています。だからこそ、子育ての悩みを自由に語り合える場や人間関係を求めている人のために同じようなことで悩んでいる人と話し合い、ヒントをもらうことが一番助けになると考え、地域のみんなで語り合える場を提供していきたいと思っております。

さらに人生を自ら切り拓いていく上で欠くことのできない職業観、人生観、創造力、企画力といったものも家庭教育で自然に培われるものではないでしょうか。AIや5Gといった技術革新やグローバル化が進み、社会の変化とともにこれまで当たり前だった仕事が機械に代替され、一方で新たに注目を浴びる職業も登場してきています。将来、子どもたちの65%が「今はない職業」に就くだろうとも言われております。YouTuberのように10年前にはなかった職業が注目を集める中、新しい仕事や働き方は今後も増えていくかもしれません。いつか全ての子どもたちに「将来の夢」を真剣に考える時が訪れるでしょう。自分の生き方や将来について考える時に最初に考えるのは、自分の好きなことや興味・関心です。早いうちから子どもの「好き」や「チャレンジ」を応援して将来何になりたいかを考えるきっかけを与えてあげることが大切です。

私は、三日坊主でもいいと思っています。子どもの挑戦を応援することが大切です。三日間という短い間であっても、チャレンジした経験は将来の人生設計の材料になります。子どもにさまざまな経験をたくさんさせることで子どもが将来夢中になる物事に会うきっかけを作ってあげられるような事業の推進をしてみたいです。

「マーケティングとブランディングの司令塔。」

魅力発信委員会

東京から新幹線で90分という利便性の良い立地でありながら、北と南に山並みを映しながら、上田城やその周辺に栄えた城下町の街並み。

広大な田園が望めることができ、信州最古、信州の鎌倉と呼ばれる温泉街。

絶妙な標高を生かした高地トレーニングでのアスリート育成。

日照率の高い気候を生かした広大なブドウ畑や数々のワイナリー。

歴史と文化に彩られ、四季折々の自然が織りなす景観や風物詩。

昔から脈々と受け継がれている伝統的な市民総和楽のお祭り。

まだまだ数えきれないほどの魅力が満載である。私はこんな魅力満載のこの地域が大好きです。

しかし、その逆はどうでしょう。地域間格差が広がっていることによる少子高齢化と人口減少による限界集落化、地域伝統産業・文化の衰微や観光業の衰弱、耕作地放棄の増加など今ほど地域再生の必要性が叫ばれている時代はないのではないのでしょうか。

「わか者、ばか者、よそ者」が未知の可能性を切り開く。

その再生の鍵を握るのは若いエネルギーで未来を示すわか者や常識にとらわれない斬新な発想を持っているばか者、さらには異化した目でこの地域を見つめるよそ者ではないのでしょうか。

まず一つ目が、地域の自治力には、企画力と実行力が必要であり、従来は同じ人が担っていましたが、その双方とも衰退してきていると感じています。40歳までの青年経済人の集まりである私たちが、先頭に立って行動し地域の自治力を向上できる事業の推進をしてまいります。

二つ目が、地域の衰退により行政による地域活動と住民による地域活動の間に空白領域が生まれていて、これを埋めるための活動をしていく必要があります。常識にとらわれない、革新的な視点でこの地域の魅力を発見発信することが重要ではないのでしょうか。今こそ複数の市町村が広域的に連携し地域の魅力を「点」から「線」へと結んで、「太い動線」とすることが重要です。広域的に観光周遊ルートの形成を図り、地域内外の交流人口を拡大し、各地域の関係人口を増加させ、広域的にこの地域を活性化させる事業の推進をしてまいります。

三つ目に、地域全体が自らの地域の魅力に自覚的になる必要があるのではないのでしょうか。そのために、よそ者の異化した新鮮な目で町の良さを記録し、それをデジタルネットワークを介して発信し、若い力を集める。そんな夢のような事業を構築していきます。

「仲間がいればなんでもできる。」

組織増強委員会

人材確保の必要性は会社の将来性や存続、収益に関わる重大な問題です。人材が確保できず人手不足に陥れば、事業の拡大はできず会社の成長は難しくなります。

私たち青年会議所でも全国的に会員の減少が問題となっています。しかし、これからも私たちは志を同じうする者が相集い力を合わせこの地域の課題に向き合い、英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな社会の実現のためにこれからも活動をしていかなければなりません。この想いはこれからも変わることはないでしょう。

近年、新型コロナウイルスの影響からテレワークが浸透して働き方の多様化が活発になり、柔軟な働き方に対応する働き方改革が行われ、勤務日数や労働時間、勤務場所など多様化が求められています。私たち青年会議所でもこのような活動の多様性を認めれば、多くの仲間の参画できる可能性が広がり、より多くの方が私たちの活動に魅力を感じてくれるのではないのでしょうか。活動時間や活動場所を固定しないことや会議時間を明確に設けることで経営者のみでなく、フリーランスで活躍している方や経験豊富な子育て世代の力を組織に取り入れることもできるでしょう。

また活動の多様化はライフステージの急激な変化にも対応できるため安心して参加できる環境づくりにもつながります。さらには、私たちの活動における明確なビジョンをしつ

かり伝え、私たちが活動を通して地域をどうしたいかを明確にすることで、入会者へのビジョンの共有にもつながると考えています。理念の共有は、私たち青年会議所活動を継続していく上で、欠かせない存在になるでしょう。また私たちから率先して様々な青年経済人との交流を図ることで、青年会議所に対する愛着や好感度を高めてもらうこともできると考えます。

そこで「青年会議所で活動する魅力は何か?」「想いや目的は?」など、私たちは青年会議所活動での活動意義を言語化していくことでメンバーの拡大を通して、強靱な組織を作り上げてまいります。

「最高のマネジメント集団。」 事務局

野球・サッカー・バスケットなど、ほとんどの団体競技のチームには、「マネージャー」と呼ばれる人がいるのではないのでしょうか。マネージャーつまりマネジメントする人とは「効率的に組織を運営する人」のことを言います。

私たち青年会議所には最高のマネジメント集団である事務局を設置しています。

私たちの活動をよりスムーズにし、メンバー一人一人の活動をより円滑にする。大切な総会や理事会を効率的に実施する。各地域の青年会議所や他団体との調整を図り、渉外活動を積極的に行う。青年会議所の「顔」である事務局を通して、これからもこの地域に必要とされる団体となるために活動を続けてまいります。

さらに、本年は私たち上田青年会議所より公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区協議会の会長を輩出します。私たち上田青年会議所が更に成長し、北陸信越地区の模範となるべくメンバー一人一人をサポートしてまいります。

「感謝の気持ちを忘れずに。」

最後に、私たちが本年も活動できることは、決して私たちだけの力ではありません。上田青年会議所の伝統を守ってきてくださった先輩の皆様がいたからこそ、私たちは本年も活動ができる。

大切な家族がいてくれるから私たちは安心して活動ができる。

会社の仲間たちがいてくれるから私たちは活動に専念できる。

このように、たくさんの方々に支えられながら私たちは活動ができています。本年メンバー一人一人が感謝の気持ちを忘れずに、そして私自身も活動を共にするメンバー全員への感謝の気持ちを忘れずに一年間活動を行ってまいります。